

令和4年度水稻定点調査 結果

丹波県民局丹波農業改良普及センター、丹波篠山市、JA丹波ささやま、兵庫県農業共済組合

設置場所	調査年度	移植日	移植時 葉齢	苗丈 (cm)	植付本数	草丈					茎数(本/株)					出穂日*	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/株)
						6月1日期	6月15日期	7月1日期	7月15日期	7月31日期	6月1日期	6月15日期	7月1日期	7月15日期	7月31日期				
後川上 17.2株/㎡	R4	4月30日				26.9	33.4				9.1	15.2							
	平年比	-9				112.5%	100.6%				138.3%	91.0%							
	平年	5月8日	3.3	15.2	3.8	23.9	33.2	55.7	79.2	98.2	6.6	16.7	24.2	23.5	22.5	7月30日	87.7	18.5	21.7
般若寺 18.0株/㎡	R4	5月5日				27.8	36.3				11.1	26.1							
	平年比	-5				115.4%	99.8%				141.0%	118.5%							
	平年	5月10日	3.4	12.3	3.8	24.1	36.4	60.4	81.7	104.8	7.9	22.0	26.4	24.0	23.0	7月30日	90.3	18.4	21.7
本郷 17.4株/㎡	R4	5月5日				25.1	30.8				9.7	10.7							
	平年比	-2				109.4%	94.9%				150.1%	80.2%							
	平年	5月7日	3.5	17.0	4.1	22.9	32.5	55.3	76.6	97.3	6.5	13.3	20.2	19.2	18.7	7月28日	82.3	18.1	17.8
真南条下 15.2株/㎡	R4	5月8日				25.4	34.9				12.5	21.4							
	平年比	2				96.4%	87.9%				134.3%	96.8%							
	平年	5月6日	3.3	17.7	5.1	26.4	39.7	59.3	78.3	98.9	9.3	22.1	25.7	23.2	20.2	7月27日	84.1	18.1	20.3
町之田 19.0株/㎡	R4	5月8日				35.8	36.4				6.7	14.5							
	平年比	0				122.3%	95.6%				64.4%	72.8%							
	平年	5月8日	3.8	16.8	4.4	29.3	38.1	56.4	77.4	98.4	10.4	19.9	24.2	20.4	18.9	7月26日	84.8	17.6	19.5
川原 24.0株/㎡	R4	5月20日				27.4	31.9				10.8	19.8							
	平年比	-11				118.8%	104.3%				174.1%	156.3%							
	平年	5月9日	3.5	19.2	4.2	23.1	30.6	50.8	75.6	95.0	6.2	12.7	20.3	19.2	18.2	7月30日	82.4	17.6	18.6
上小野原 12.5株/㎡	R4	5月15日				26.3	28.5				6.3	16.1							
	平年比	2				113.3%	86.2%				112.1%	93.7%							
	平年	5月13日	3.6	14.3	4.1	23.2	33.0	56.6	77.0	98.3	5.6	17.2	24.3	22.1	20.8	7月29日	85.3	18.7	20.4
令和4年平均		5月9日				27.8	33.2				9.5	17.7							
対平年比		4383				112.6%	95.4%				126.2%	99.9%							
平年		5月9日	3.5	16.3	4.2	24.7	34.8	56.3	78.0	98.7	7.5	17.7	23.6	21.6	20.3	7月29日	85.3	18.1	20.0

【6月15日調査】

6月15日の調査では、全体平均で草丈は33.2cm(平年比95.4%)と平年より短く、茎数は17.7本/株と平年並となり、定点間の生育差が大きかった。前回(6月1日)の調査では、日照時間が平年より長くて気温も高く推移したことから活着が良好で、草丈と茎数は平年を大きく上回ったが、6月上旬の気温が平年に比べ2℃ほど低かったため、草丈の伸長と分けつの発生が緩慢になったと考えられる。

今回の調査でも、前回の調査と同様にイネミズゾウムシの食痕が若干見られたが、イネドロオイムシと葉いもちの発生は確認できなかった。葉いもちについては、今後の天候によって発生の恐れがあるので、ほ場のこまめな観察により早期発見に努め、初発を認めたら薬剤の防除を行う。